

第45期 株主通信

2024年4月1日 ▶ 2024年9月30日



...for patient comfort.



ごあいさつ

上期実績は過去最高を更新、通期の業績達成を目指す

株主の皆さまには平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
2025年3月期の上期は中核事業であるEP/アブレーションおよび心血管関連が好調に推移したことに加え、成長事業である脳血管関連および消化器の伸長により、2024年6月からの保険償還価格下落の影響をカバーしました。その結果、増収増益を達成し、売上高、営業利益、中間純利益の各項目において半期ベースで過去最高を更新することができました。
下期はEP/アブレーションの戦略的な新製品である大腿静脈用止血デバイスの販売拡大や脳血管関連および消化器での新製品リリースによるラインナップ強化を通じて、公表数値の達成に向けて着実に取り組んでまいります。
株主の皆さまにおかれましては、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 鈴木 啓介



2025年3月期の上期の業績について教えてください

2025年3月期上期の業績は好調でした。
売上高は27,985百万円（前年同期比11.4%増）、営業利益は6,260百万円（同14.4%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は4,435百万円（同10.0%増）となり、いずれも半期ベースで過去最高を更新しました。

心房細動の症例数が前年同期比で約10%増加した

ことを背景に、主力事業のEP/アブレーションで心腔内除細動カテーテル等の自社製品の販売が拡大しました。また、成長ドライバーである大腿静脈用止血デバイスも市場浸透が進みました。心血管関連では、他社の新規参入がある中でFrozen Elephant Trunk（従来の「オープンステントグラフト」から呼称変更）が好調に推移しました。中期で成長を見込む脳血管関連および消化器も、計画を上回るスピードで拡大しています。

保険償還価格改定による販売単価の下落、さらに一過性の貸倒引当金繰入を含む販売費及び一般管理費の増加がありましたが、この影響を販売数量の増加でカバーし、二桁増益を達成することができました。

なお、売上総利益率は60.6%（前年同期比+0.0pt）で前年同期並みとなりました。自社製品比率は、仕入商品の好調を受け57.6%（前年同期比△1.5pt）と低下しましたが、低採算事業からの撤退や自社製品の原価低減などの利益率アップの取り組みを推進しました。

中核事業における今後の事業環境の見通しについて教えてください

EP/アブレーションでは、2025年3月期の心房細動の症例数は通期で前期比8%増と予想しましたが、上期は10%増と想定を上回りました。下期も同様の伸びが期待されるため、市場の成長を最大限取り込むべく、心腔内除細動カテーテルや大腿静脈用止血デバイスなど、症例数と売上高が密接に関連する品目のシェア維持・拡大に努めます。また、心血管関連のFrozen Elephant Trunkも、競合他社の参入で市場が活性化しています。これまで当社の単独市場で年5%程度の成長でしたが、現在は年9%のペースで拡大しています。競争はありますが、自社製品をさらに伸ばす好機と捉えています。幅広い症例に対応するため、サイズラインナッ

プと生産体制を強化し、冬場の需要期に販売機会を最大化するよう取り組んでいます。

脳梗塞治療に関連する製品の戦略について教えてください

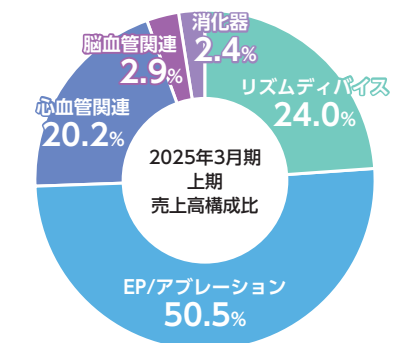
脳梗塞治療において、脳血管に詰まった血栓をデバイスで回収するカテーテル治療が急速に普及しています。当社は9月から新たにステントリトリバーの販売を開始しました。この製品は、蛇行した血管でも血栓を取りこぼしにくい特長があり、すでに臨床現場から良いフィードバックを得て、販売は良好に立ち上がっています。ステントリトリバーと前期に導入した血栓吸引カテーテルは同時に使用されるため、両製品が揃ったことは非常に大きな意味を持ちます。今後、これらの製品間でシナジーを発揮し、販売が加速することを期待しています。また、脳血管関連では今後も様々な製品投入の予定があり、上市準備を着々と進めています。



ステントリトリバー「pRESET」

品目別の販売状況

- リズムデバイスは、ICD関連の売上高が半期ベースで過去最高を更新したものの、保険償還価格改定の影響により、わずかな増収となりました。
- EP/アブレーションは、心房細動のアブレーション治療の症例数増に伴いEPカテーテルの販売が大きく伸長したほか、大腿静脈用止血デバイスが採用施設数を順調に拡大し販売増となったことにより、増収となりました。
- 心血管関連は、Frozen Elephant Trunkが市場拡大の影響により販売が好調に推移したほか、心房中隔欠損閉鎖器具は積極的な営業施策が奏功したことにより、増収となりました。
- 脳血管関連は、塞栓用コイルや血栓吸引カテーテルの販売が好調に推移したことにより大幅な増収となり、半期ベースで過去最高を更新しました。
- 消化器は、コロナリー・インターベンション事業の終了による減収はあったものの、胆管チューブステントや大腸用ステントの販売が好調に推移したことにより、増収となりました。



リズムデバイス

売上高
6,725百万円
(前年同期比 **+0.8%**)

▼主要取扱品目

- ・心臓ペースメーカ
- ・T-ICD（経静脈植込み型除細動器）
- ・S-ICD（完全皮下植込み型除細動器）など

EP/アブレーション

売上高
14,123百万円
(前年同期比 **+16.3%**)

▼主要取扱品目

- ・EP（電気生理）カテーテル
- ・アブレーションカテーテル
- ・心腔内除細動カテーテル など

心血管関連

売上高
5,656百万円
(前年同期比 **+6.9%**)

▼主要取扱品目

- ・人工血管
- ・Frozen Elephant Trunk
- ・ステントグラフト など

脳血管関連

売上高
800百万円
(前年同期比 **+126.3%**)

▼主要取扱品目

- ・塞栓用コイル
- ・血栓吸引カテーテル
- ・ステントリトリバー など

消化器

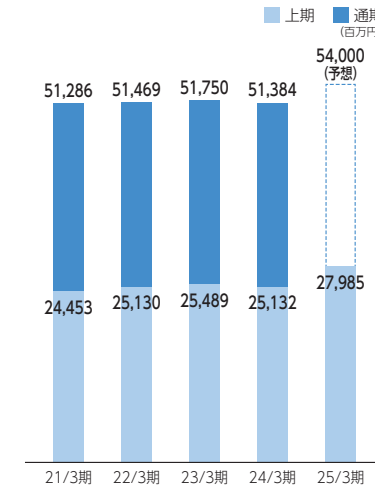
売上高
680百万円
(前年同期比 **+1.7%**)

▼主要取扱品目

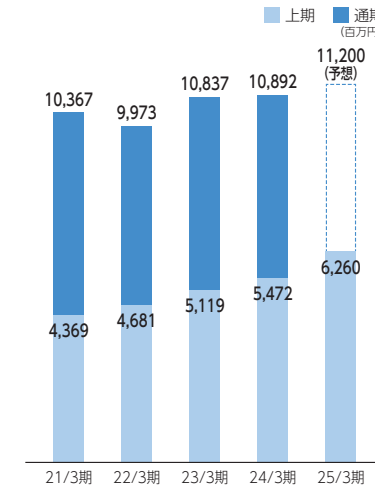
- ・胆管チューブステント
- ・大腸用ステント
- ・肝臓治療用ラジオ波焼灼電極針 など

主要連結財務データ

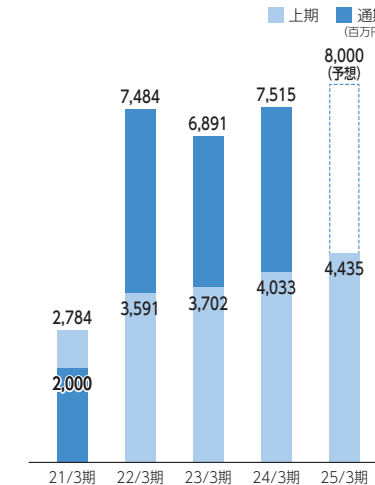
売上高



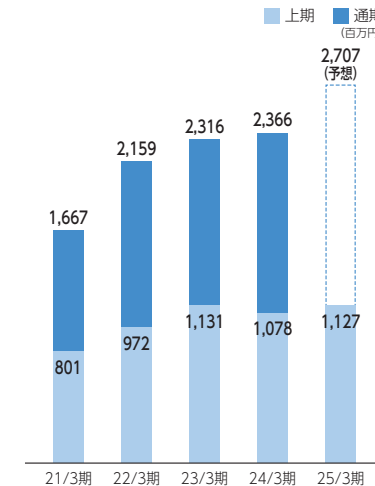
営業利益



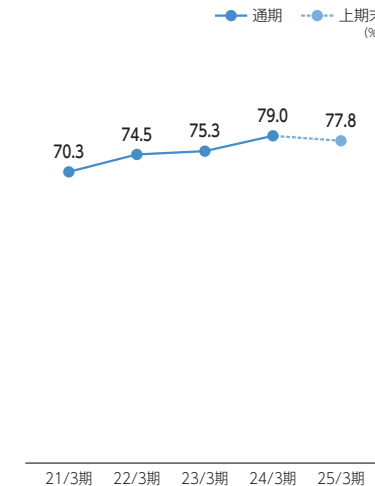
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益



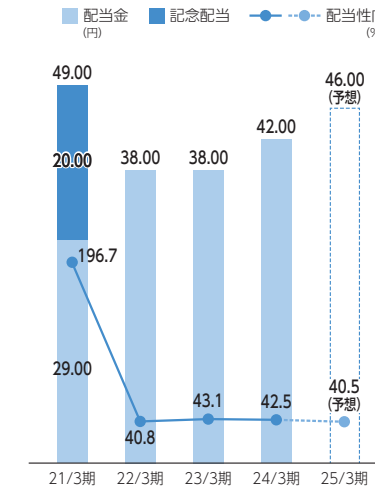
研究開発費



自己資本比率



配当金・配当性向



■ BeeATとは

BeeATとは、当社が日本で初めて開発した心腔内除細動カテーテルです。心腔内除細動カテーテルは、除細動機能が付いた診断用カテーテルで、今日、国内の心房細動に対するカテーテルアブレーションの8割以上の症例で使用されています。

アブレーション中に心房細動が発生した場合、治療の進行が妨げられることがあります。BeeATは、術者が患者様への負担をより低減した方法で、簡便に心房細動を停止する除細動を行うために開発されました。従来は体外から電気ショックを与えることで除細動を行っていましたが、BeeATはカテーテルにより直接心臓の内側から電気ショックを与えることができます。そのため、従来法の10分の1程度のエネルギーで心房細動を停止でき、患者様の負担を低減することができます。また、体外式の除細動器を使用する必要がなくなり、術者はスムーズに治療を進められるようになりました。

2012年の発売以来、BeeATは患者様と医療従事者の双方に大きく貢献する医療機器として全国に普及し、その販売本数は累計60万本を突破しました。

■ BeeATの強み

2024年3月期の上期より競合他社が心腔内除細動カテーテルの販売を開始しましたが、当第2四半期において、BeeATは自社推計で96%と圧倒的な市場シェアを維持しています。

BeeATが医療現場で選ばれ続ける理由の一つに、カテーテルとしての基本性能の高さが挙げられます。他社品は操作ワイヤーや導線を通すためのチューブやバネなどの構造物を後付けでシャフト*1に挿入して製造されますが、当社のカテーテルは、独自技術を用いることで、内部の構造物とシャフトが一体化した状態で製造されます。このため、同じ細さでも、内径の大きいルーメン*2を複数搭載することができ、中に通す操作ワイヤーや導線の独立性を確保しやすくなりました。その結果、カテーテルの操作性が大幅に向上し、BeeATは術者の意図する緻密な操作をより正確に反映することに成功しました。

*1 カテーテル外層の管の部分。

*2 カテーテル内部の空洞。この空洞に操作ワイヤーや導線などを通す。

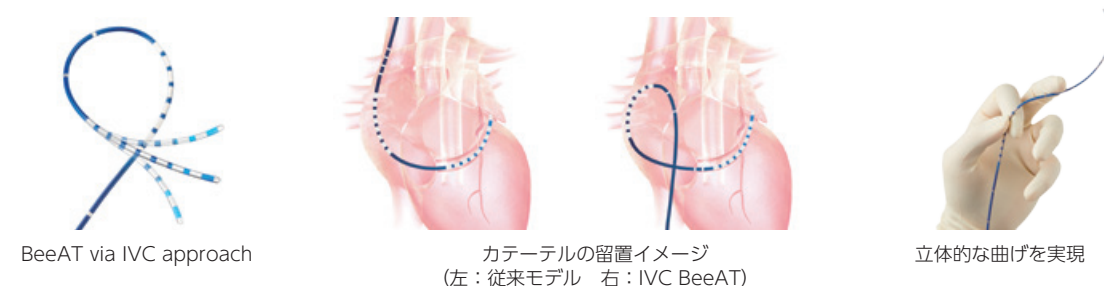


■ 多様化する医療現場のニーズに応えるために

心房細動のアブレーション件数は、技術革新の進展もあり急速に増加しています。2012年に2万件程度であった治療件数は2022年に9万件を超え、今後も堅調に増加していく見込みです。アブレーション件数が年々増加していく中、患者様により最適なカテーテルを提供するために、当社は医療現場の声と共に製品開発に取り組んでいます。

その成果として、2024年には当社オンリーワンモデルの心腔内除細動カテーテルを2つ上市しました。そのうちの一つである「BeeAT via IVC approach (以下、「IVC BeeAT」)」は、治療用カテーテル等と同様に太ももの付け根から使用することができます。心腔内除細動カテーテルは留置の容易さから、首や腕から挿入して使用されることが多いです。しかし、合併症が起きた際のリスクが大きいことや走行血管の閉塞などの問題で、すべての患者様に対して使用できるわけではありません。IVC BeeATは、新規に開発したカテーテルを3次元に曲げる技術を採用し、太ももからの挿入においても容易に検査部位に留置することが可能です。これにより、今まで心腔内除細動カテーテルを使用できなかった患者様に対しても、身体への負担が少ない除細動治療を提供できるようになりました。

BeeATは、医療現場のニーズに応えることで、そのラインナップを16種類まで拡大し、他社の追随を許さない地位を確立しています。今後も患者様や医療従事者の皆さまにとって価値ある医療機器を開発することで、当社は健康社会の実現に貢献していきます。



もう一つのオンリーワンモデル

もう一つのオンリーワンモデルに、「BeeAT with inner Lumen」があります。これは、カテーテルの先端から後端まで一本の空ルーメンを設けることで、他の医療機器や薬剤との併用を可能にしました。多様化する心房細動のアブレーションに、新しい治療の選択肢を提供できる医療機器として、医療現場からも高い評価を得ています。

また、本製品は不整脈治療の安全性の向上に寄与する点が高く評価され、2024年度グッドデザイン賞を受賞しました。





当社は2014年10月に国内3カ所目の製造拠点となる小山ファクトリー（栃木県小山市）を開設しました。開設当初はEP/アブレーションにおけるカテーテルの品質検査・包装・滅菌・梱包を担当していましたが、現在はカテーテル部材の組付けや加工も行っています。さらに、2020年2月に拡張した新棟では、カテーテルシャフトの製造や人工血管の部材加工を担当するなど、役割を拡大してきました。

開設10周年を迎える2024年現在では、従業員数*1は開設当初の約40名から約170名とおおよそ4倍、出荷本数は初年度の約3万本から約27万本とおおよそ9倍にまで増加しています。

当社は自社製品の海外市場への進出を中長期的なテーマの一つとして掲げています。小山ファクトリーは、国際的な規制要求事項に対応することで、輸出拡大に向けた取り組みを強化しています。

*1 派遣社員、パート社員を含む

会社概要 (2024年9月30日現在)

商 号	日本ライフライン株式会社
所 在 地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設 立	1981年2月6日
資 本 金	2,115百万円
従 業 員 数	連結1,216名 単体972名
連 結 子 会 社	JLL Malaysia Sdn. Bhd.

役 員 (2024年9月30日現在)

代表取締役社長	鈴木 啓介	社 外 取 締 役	佐々木文裕
代表取締役副社長	鈴木 厚宏	社 外 取 締 役	池井 良彰
常 務 取 締 役	村瀬 達也	社 外 取 締 役	川原奈緒子
常 務 取 締 役	山田 健二	取 締 役 (常勤監査等委員)	高橋 省悟
取 締 役	高宮 徹	社 外 取 締 役 (監査等委員)	中村 勝彦
取 締 役	出井 正	社 外 取 締 役 (監査等委員)	浅利 大造
取 締 役	干場由美子	社 外 取 締 役 (監査等委員)	苅米 裕
取 締 役	江川 毅芳		
取 締 役	伊藤 孝志		

株主メモ

事 業 年 度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月
単 元 株 式 数	100株
配 当 金 受 領 株 主 確 定 日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、 9月30日といたします。
上 場 取 引 所	東京証券取引所 プライム市場
公 告 方 法	電子公告 https://www.jll.co.jp ただし、電子公告によることができない事故、その他 のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に 掲載して行います。

株式に関するお問い合わせ

1. 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等

▶ 証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

▶ 特別口座に記録された株式をお持ちの株主様
特別口座管理機関にお問い合わせください。

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話：0120-232-711（通話料無料）

2. 未受領の配当金について

三菱UFJ信託銀行本支店で支払いいたします。

日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号
電話 03-6711-5200
URL <https://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。